ビジネスユースケース
ONTAP Select

NetApp
November 09, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/ontap-select-9191/concept_usecase_overview.html on November 09, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

ビジネスユースケース . . . 1
- ONTAP Select のビジネスニーズと利用シナリオ . . . 1
  - 導入 . . . 1
  - ストレージ . . . 1
  - 開発とテスト . . . 1
- ONTAP Select リモートオフィスおよびブランチオフィス向けのユースケース . . . 2
- ONTAP Select のプライベートクラウドおよびデータセンターのサポート . . . 3
- ONTAP Select データ保護と効率性 . . . 4
  - Snapshotデータ保護 . . . 4
  - MetroCluster ソフトウェアで定義されるストレージ . . . 4

ビジネスユースケース

ONTAP Select のビジネスニーズと利用シナリオ

ONTAP Selectは、ハイパーバイザー仮想化によって提供される固有の柔軟性に基づいて、いくつかの異なるタイプのアプリケーションに適しています。

導入

大まかに言えば、ハイパーバイザーホストサーバー上のワークロードに関して、ONTAP Selectを2つの異なる方法で導入できます。

専用導入

専用デプロイメント モデルでは、ONTAP Select の単一のインスタンスがホスト サーバ上で実行されます。同じハイパーバイザー ホスト上で他の重要な処理は実行されません。

コロケーション展開

併設型展開モデルでは、ONTAP Selectホストを他のワークロードと共有します。具体的には、それぞれが通常、計算アプリケーションを実行する追加の仮想マシンが存在します。これらの計算ワークロードは、ONTAP Selectクラスタに対してローカルです。このモデルは、特殊なアプリケーションおよび展開要件に対応しています。専用展開モデルと同様に、各ONTAP Select仮想マシンは、別の専用ハイパーバイザーホスト上で実行する必要があります。

ストレージ

ONTAP Selectは、ビジネスニーズに応じて、プライマリストレージとしてもセカンダリストレージとしても使用できます。

プライマリ ストレージ

場合によっては、ONTAP Selectをプライマリストレージプラットフォームとして導入することを選択できます。これらのタイプの実装は、アプリケーションのワークロード特性やビジネス目標によって異なります。

ディザスタリカバリとセカンダリストレージ

ONTAP Selectを使用して、プライマリストレージの機能を拡張する追加ストレージを導入できます。追加のストレージ容量は、組織の災害復旧活動やデータバックアップ計画を支援するために活用できます。

開発とテスト

組織内でさまざまなアプリケーションを展開する際に、ONTAP Selectをアプリケーション開発およびテストプロセス全体の不可欠な要素として使用できます。例えば、テストの入力データや出力データを一時的に保存するためのストレージが必要になる場合があります。こうしたタイプの導入にかかる期間は、アプリケーションの特性や要件によって異なります。

ONTAP Select リモートオフィスおよびブランチオフィス向けのユースケース

ONTAP Selectを遠隔オフィス／支店（ROBO）の状況に導入し、小規模オフィスをサポートしながら、中央集権的な管理と統制を維持します。

以下のROBO構成がサポートされています：

- HA機能を備えた2ノードクラスタ
- シングルノードクラスタ

ONTAP Select VMはアプリケーションVMと共存できるため、ROBOにとって最適なソリューションとなります。

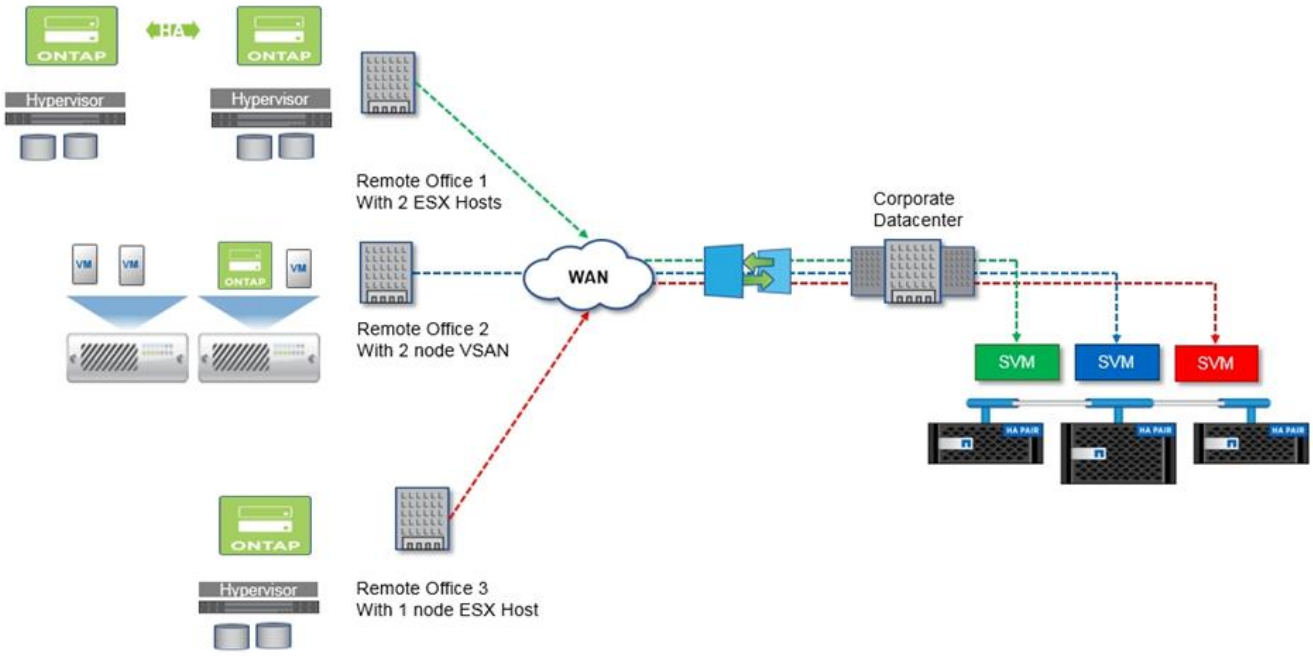
ONTAP Selectを使用してエンタープライズクラスのファイルサービスを提供し、他のONTAP SelectまたはFASクラスタへの双方向レプリケーションを可能にすることで、最小限の介入または低コストの環境で回復力の高いソリューションを構築できます。ONTAP Selectには、CIFS、NFS、iSCSIプロトコルサービスの機能ライセンスと、SnapMirrorおよびSnapVaultレプリケーションテクノロジがあらかじめ組み込まれています。したがって、これらの機能はすべて、導入後すぐに利用できます。

> すべての VMware vSphere ライセンスがサポートされているため、Enterprise または Enterprise Plus ライセンスの代わりに vSphere Remote Office Branch Office Standard または Advanced ライセンスを選択できます。
>
> すべてのvSphereおよびVSANライセンスがサポートされています。

リモートメディエーターを使用するONTAP Select 2ノードクラスタは、小規模データセンターにとって魅力的なソリューションです。この構成では、HA機能はONTAP Selectによって提供されます。2ノードONTAP Select ROBOソリューションの最小ネットワーク要件は、4つの1Gbリンクです。単一の10Gbネットワーク接続もサポートされています。VSAN上で動作するvNAS ONTAP Selectソリューション（2ノードVSAN ROBO構成を含む）も別の選択肢です。この構成では、HA機能はVSANによって提供されます。最後に、データをコアロケーションに複製する単一ノードONTAP Selectクラスタは、汎用サーバ上で堅牢なエンタープライズデータ管理ツールセットを提供できます。

次の図は、VM ESXi上のONTAP Selectを使用した一般的なリモートオフィス構成を示しています。スケジュール駆動型のSnapMirror関係により、リモートオフィスからメインデータセンターにある単一の統合エンジニアードストレージアレイにデータが定期的にレプリケートされます。

リモート オフィスから企業データ センターへのスケジュール バックアップ



ONTAP Select のプライベートクラウドおよびデータセンターのサポート

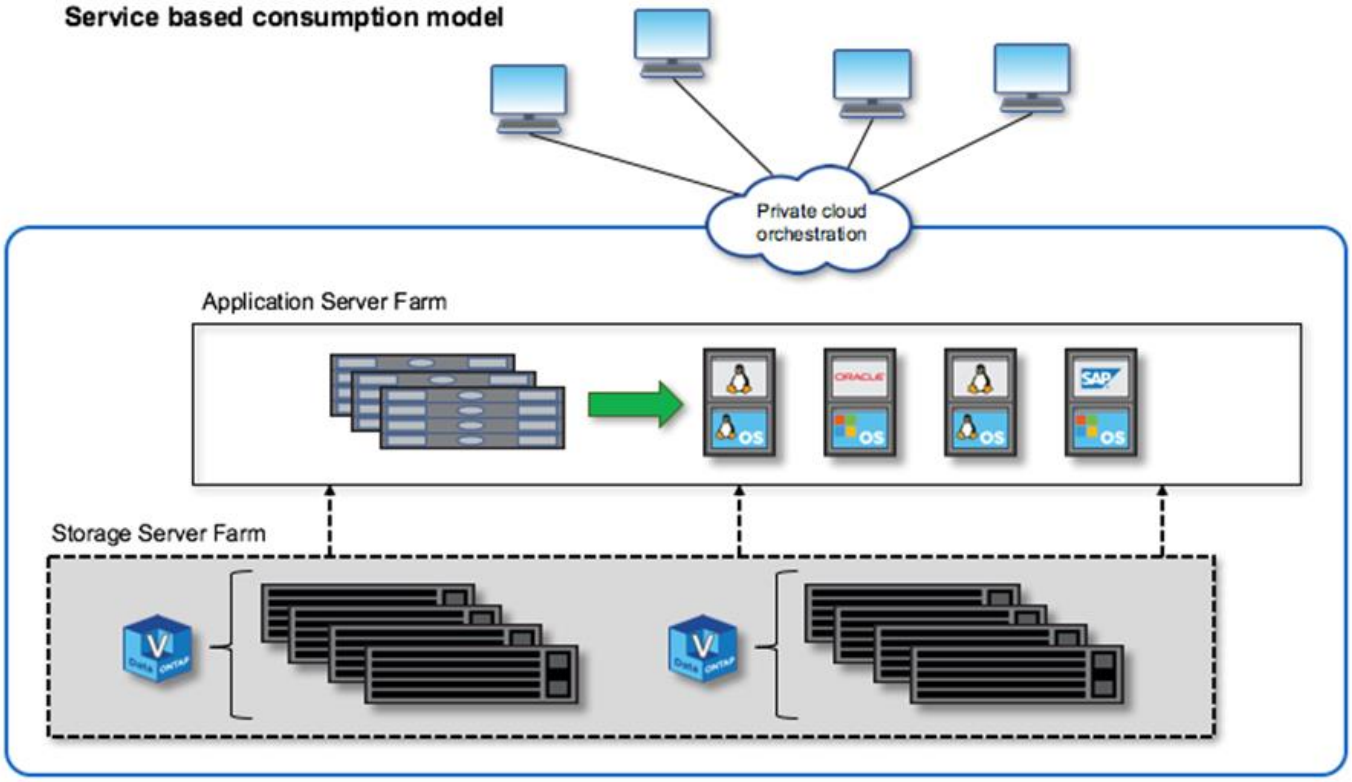
ONTAP Selectは、組織内の1つまたは複数のプライベートクラウドをサポートするのに最適です。一般的な利用例としては、汎用サーバ上に構築されたプライベートクラウド向けにストレージサービスを提供することが挙げられます。

パブリッククラウドと同様に、プライベートクラウドも柔軟性に加え、迅速なセットアップと削除を可能にします。さらに、プライベートクラウドはセキュリティと制御性を向上させます。

次の図は、ストレージファームがONTAP Select VMにコンピューティングとローカル接続ストレージを提供し、ONTAP Select VMがアプリケーションスタックの上流にストレージサービスを提供する仕組みを示しています。SVMのプロビジョニングからアプリケーションVMの導入と設定に至るまでのワークフロー全体は、プライベートクラウドオーケストレーションフレームワークによって自動化されています。

これはサービス指向型のプライベートクラウドモデルです。ONTAP SelectのHAバージョンを使用すると、より高価なFASアレイで期待されるのと同じONTAPエクスペリエンスが得られます。ストレージサーバーのリソースはONTAP Select VMによって排他的に消費され、アプリケーションVMは別の物理インフラストラクチャ上でホストされます。

DAS上に構築されたプライベートクラウド



ONTAP Select データ保護と効率性

ONTAP Select は、高可用性を備えた共有なしのスケールアウトアーキテクチャにより、エンタープライズストレージサービスを効率的に提供する ONTAP ストレージソフトウェア上に構築されています。1ノード、2ノード、4ノード、6ノード、8ノード、10ノード、または12ノードでソリューションをデプロイでき、各ノードあたり最大400TBのNFS、SMB/CIFS、およびiSCSI接続ストレージの生容量を利用できます。ネイティブの重複排除と圧縮を活用することで、実効容量を増やし、ストレージコストを削減できます。スケールアウトアーキテクチャにより、ロード バランシングまたはハードウェアの保守のための高可用性と中断のないデータアクセスが実現します。

Snapshotデータ保護

ONTAP Selectには、スナップショットやSnapMirrorソフトウェアなどのデータ保護機能が含まれています。オンプレミス、リモートサイト、クラウドのいずれの場所でも、他のONTAPストレージにデータを迅速にレプリケートできます。データを迅速にリカバリする必要がある場合、SnapRestoreソフトウェアはローカルスナップショットを使用して、容量やファイル数に関係なく、ファイルシステム全体またはデータボリューム全体を数秒でリカバリできます。

MetroCluster ソフトウェアで定義されるストレージ

ONTAP Select MetroClusterソフトウェアで定義されるストレージ（SDS）は、強化された保護機能と費用対効果の高い導入を実現します。

2ノードクラスタは、一定の最小要件を満たせば、2つの拠点間で延伸できます。このアーキテクチャは、ハ

ードウェアベースのMetroClusterとシングルデータセンタークラスタ（ハードウェア定義またはソフトウェアで定義される）の中間に位置します。ONTAP Select MetroCluster SDSの要件は、ソフトウェアで定義されるストレージソリューションの一般的な柔軟性と、ハードウェアベースのMetroCluster SDSとの違いを強調しています。専用ハードウェアは不要です。

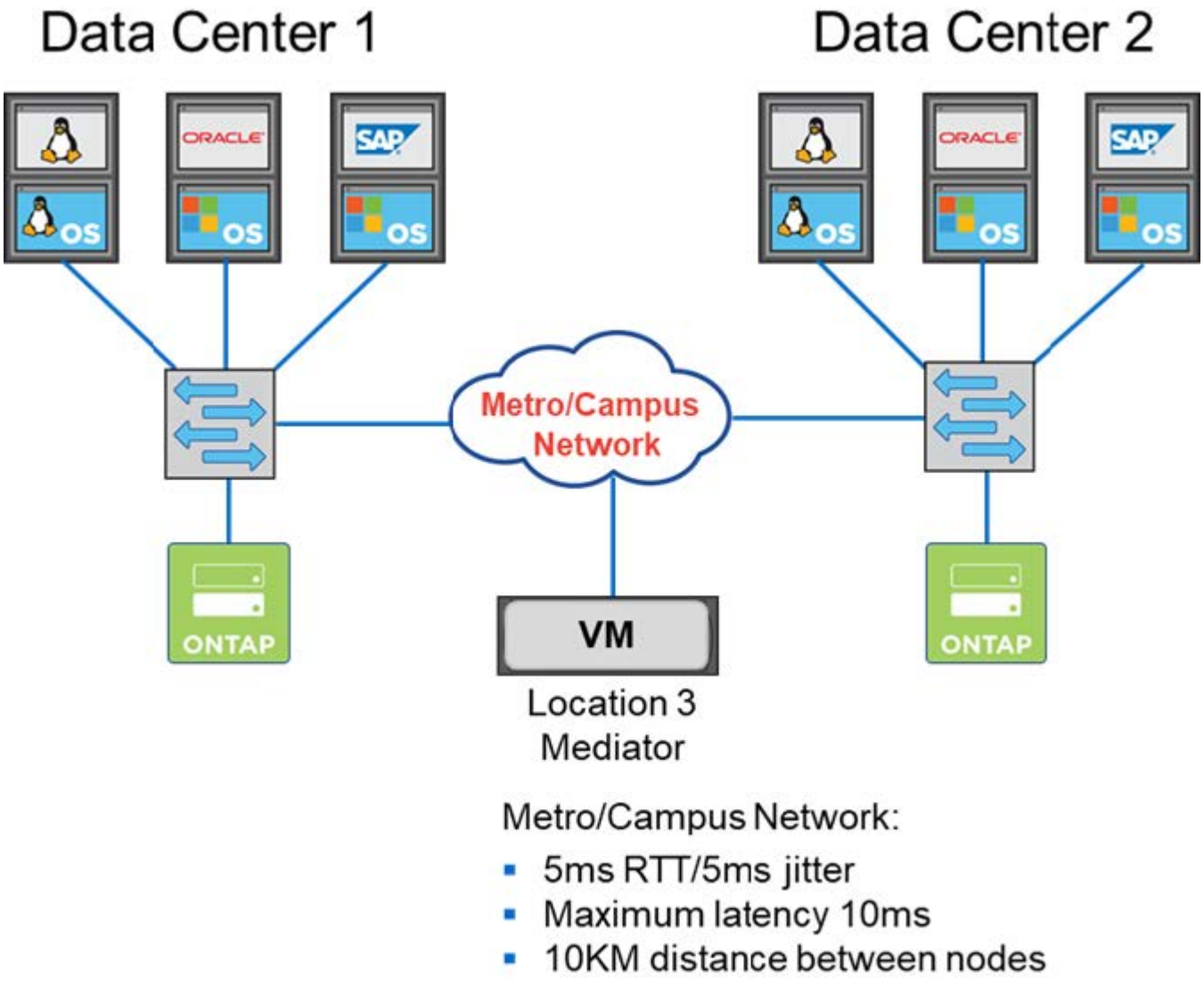
MetroClusterとは異なり、ONTAP Selectは既存のネットワーク インフラを使用し、最大5msのRTTと最大5msのジッターをサポートし、合計で最大10msの遅延に対応します。市場における分離要件は、実際の距離よりも物理的な分離に関係することが多い。場合によっては、これは異なる建物を意味することもある。また、同じ建物内の異なる部屋を指す場合もある。実際の物理的な配置に関係なく、2ノードクラスタをMetroCluster SDSとして定義するのは、各ノードがそれぞれ独立したアップリンクスイッチを使用することです。

2ノードHA構成の一部として、フェイルオーバー時にアクティブなノードを適切に識別し、ネットワーク分断時に両方のノードが独立してアクティブなままになるスプリットブレイン状態を回避するために、メディエーターが必要です。この操作は、以前から利用可能だった通常の2ノードHA構成と同一です。サイト障害時の適切な保護とフェイルオーバーのために、メディエーターは2つのHAノードとは別のサイトに配置する必要があります。メディエーターと各ONTAP Selectノード間の最大レイテンシは125msを超えてはいけません。

ONTAP Select MetroCluster SDS には、次のようなメリットがあります。

- MetroCluster SDS は、ONTAP Select にデータセンター間の保護という別の次元を提供します。ソフトウェアで定義されるストレージと ONTAP のすべてのメリットを活用することに加えて、この追加レベルの保護を利用できるようになりました。
- MetroCluster SDSは、RPO 0でビジネス クリティカルなデータ保護と自動フェイルオーバーを提供します。データストレージとアプリケーションアクセスポイントの両方が、IT部門の介入なしに、稼働中のデータセンターまたはノードに自動的に切り替わります。
- MetroCluster SDSは費用対効果が高い。既存のネットワークインフラを活用することで、HAペア間の拡張された耐障害性を実現し、追加のハードウェアは不要です。また、同一クラスター内でアクティブ / アクティブのデータアクセスとデータセンターの冗長性を提供します。

MetroCluster SDS



ベストプラクティスやその他の要件の詳細については、"2ノードHAとマルチノードHAの比較"および"2ノード伸長HA（MetroCluster SDS）のベストプラクティス"のセクションを参照してください。

関連情報

"ONTAP Select による ONTAP 機能のサポート"

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。